

平成30年度 第4学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

	現在の授業・学力調査等についての分析・検証結果	授業改善に向けての具体的な方策	補充・発展的指導の計画	成果○ 課題●
国語	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査の結果は、平均正答率が約80%であり、おおむね学習内容は理解していると言える。しかし、中でも正答率の低い問題は、「書く」問題が約65%、「ローマ字に関する問題」が約50%の正答率だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件に合った構成メモを作り、一文ごとに内容を確認しながら文章を書く経験が積めるような指導を行う。 教師が教室に掲示したり、外国語活動と関連付けたりすることで、ローマ字を使い読んだり書いたりする機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の書き方を示し、参考にしながら書けるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「書く」学習において、(始め・中・終り)の構成を考えて書く機会を増やしたので、意識して文章を書くことができた。 ●ローマ字を教師が日常的に取り入れるなど、ローマ字にふれる機会を作ったが、スラスラ読んだり書いたりする力は十分ではない。東京ベーシックドリル等を活用し、定着を図る必要がある。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査の結果は、平均正答率が約8割であり、おおむね学習内容は理解している。しかし、中でも正答率が低い問題は、「地図記号や方位の知識をもとに、方位磁針の針のふれ方について、実際の調査場面に即して判断する」が約30%、「地図記号や方位の知識をもとに、与えられた条件の目的地を指摘する」が約60%の正答率だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図記号や方位についての話題を日常的に取り上げ、地図を使って方位を確認する機会を増やす。 教科書や資料集に掲載されている地図やグラフなどの資料を読み取り、ノートなどにまとめる活動を通して、資料活用能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳を用いて学習するときに、四方位を確認することを習慣付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域見学や自然体験や社会科見学などの校外学習の行き先を地図帳で確認する時間を多くとった。地図で位置をスムーズに調べることができる。 ●学習の中には、四方位のみならず、八方位の表示もあり確認したが、十分な理解には至らなかった引き続き、実体験に結び付けながら確認する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ベーシック診断シート 4月正答率80%以上の児童67% 平均正答率82% ベーシック診断シート 7月正答率80%以上の児童86% 平均正答率85% 1学期ワークテスト思考力をみる問題 平均70点以上の児童94%、他の観点では98% 授業規律がよく身に付き、話をしっかり聞くことができる。発表、意見の交換もほぼ抵抗なくできる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に対しての意欲をもたせるために生活の中での算数を意識させたり、問題文を分析するための解法の手順を確実に身に付けさせたりする。 自分の解き方を説明する場面では、図や算数的用語など意識して使うように指導する。 自力解決を目指すためにヒントを提示する。 ペア、グループでの話し合いを取り入れ、自分と友達の考えを組み合わせたり、統合したりすることで問題解決をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年の学習では棒グラフ、表、乗法などの正答率が低いので、丁寧に読み取ることを指導する。また、ノートに筆算スペースをとって丁寧に筆算することを指導する。補充が必要な児童には復習問題を毎時行う。 発展コースの児童には、学習内容を適用させた問題文作りをさせ、解き合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○くじらコースの児童は根気よく計算練習に取り組み、間違い直しを最後までできるようになった。 ○とびうおコースは、時間を上手に使って要領よく学習を進められるようになった。 ○学習の振り返りでは発展性のある内容や理解したことを再確認する文章が書けるようになった。 ○みんなの前で説明をすることに慣れてきて、図を使ったり、書きながら説明したりと幅が広がった。また、聞く方も真剣に話を聞いている。 ●ノートの書き方に個人差が見られる。文字を丁寧に書いて、見やすいノートの作成を指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 区学力調査の結果は、平均正答率が約8割であり、おおむね学習内容を理解しているといえる。しかし、中でも正答率が低い問題は、「時間の経過に伴う影の動きについて」が約50%、「鉄とアルミニウムを見分ける方法」が約50%の正答率だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察、おもちゃ作りなどを計画的に行い、実体験に基づく理解を深めさせるようにする。 実験の結果から考察したことを一般化し、知識として定着させるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で科学的事象を多く取り上げ、児童の関心を高めるとともに、それらの事象を科学的に説明する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの児童も意欲をもって、実験や観察に臨んでいる。 ○空気、水などの身近なものを取り扱う際には、日常体験を想起させ、理解を深めさせることができた。 ●事象の根拠となることをうまく説明できない児童がいたので、問題設定やノートのまとめを工夫する必要がある。

平成30年度 第4学年 授業改善推進プラン

文京区立駕籠町小学校

<p>音 楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正しい音程で歌うことに課題がある児童が5%いる。 リコーダーの運指は全員が理解して活動をしている。 [共通事項]と曲想とのかかわりについて知覚・感受したことを交流することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間2音による「よびかけとこたえ」のあいさつを継続することで、音の高さを理解することができるようにする。 [共通事項]と曲想とのかかわりについて知覚・感受したことをペアやトリオで交流し共有する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の困り感やつまずきについて、聞き取りをしながら個別の習熟を図る。 音楽表現の質が高まるような声掛けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かす活動やペアでの交流を通して、音楽の構造と曲想とのかかわりについて自分の言葉で表すことができるようになった。 ●身に付けた音楽表現の技能をその後の学習で活用することができるようにするために、技能の習熟を図るための常時活動を工夫する必要がある。
<p>図 工</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの思いや表したいことのイメージを広げることを楽しみながら、豊かな発想をもってすすんで作品づくりに取り組むことができる。 作品づくりが雑になってしまう児童や用具を適切に扱うことが難しい児童が5%おり、技能面での課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材の学習の導入時に、使用する既習の用具や材料についてワークシートなどを使って振り返らせ、正しい用具の使い方を定着させる。また、児童の実態に応じて、スモールステップで課題を設定して指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が思い付いたアイデアを積極的に認めながら、児童が「もっとこうしたい」という思いをもって、主体的に作品づくりに取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のつくりたいものに合わせて使う用具を選び、活用する活動を通して、のこぎりや金づち、彫刻刀の正しい使い方を身に付け、用具を使ってできる表現技法を意欲的に追求して活動することができるようになった。 ●児童の発想の幅を広げるために、児童にとって身近で、興味が湧く主題設定や発問、言葉掛けを工夫する必要がある。
<p>体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすこと好きで、意欲的に取り組む児童が多い。 日常の運動経験の違いが大きく、ボール運動領域や器械運動領域の技能に個人差が大きい。 ボール運動領域では、友達と協力して学習に取り組むことができない場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 動きのポイントを明示し、動きのよさや工夫について話し合ったり、振り返ったりする活動を取り入れる。また、ルールの工夫をし、協力していけるようにする。 年間を通して、授業以外にもボールを使った遊びを取り入れる。 器械、用具を使った運動では、場の設定を工夫し、課題解決に向けた取り組みができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 模範の映像や児童自身を撮影した映像を見せるなどの視覚的な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体の動かし方を言葉にして記録させたり、友達と伝え合ったりして、よりよい動きにつなげていった。 ○ゲームや試合のルールを簡単にしたり、掲示したりして理解できるよう工夫したため、協力してできる場面が多かった。 ○跳び箱運動やマット運動では、学年で授業を行いより多くの種類の場を設定し、個々の課題解決に取り組んだ。 ●ボール運動は、個人差が大きく、個々の課題に合った場を十分に用意できず、伸び悩んだ。ボールに触れる機会を増やす必要がある。